

授業科目名 (英訳)	科学技術イノベーション政策論 Theory of Science, Technology and Innovation Policy					担当者所属 職名・氏名	産官学連携本部 特任教授・栗島 修一郎				
配当学年	2・3 回生	単位数	2	開講年度 開講期	H27 前期	曜時限	金/4 (奇数年 度開講)	授業形態	講義	使用言語	日本語 英語
<b>〔授業の概要・目的〕</b>											
<p>現在、総合科学技術・イノベーション会議を中心に第5期科学技術基本計画策定が動き始めており、第4期に続き科学技術をイノベーションへつなげることが重要な命題と位置づけられようとしている。本科目では、我が国の科学技術イノベーション政策について基礎的な知識を学ぶとともに、諸外国も含めた国レベルの研究開発投資およびその波及効果について体系的に考察することにより、効果的な政策立案プロセスを学ぶ。</p> <p>科学の発展とともに、研究分野の急速な拡大と同時に細分化する中で、グローバルな観点から、今後重要となる科学技術を洞察する能力を獲得する。また、科学技術を基軸としたイノベーションの在り方について、諸外国も含め現状のイノベーション施策を分析し、アカデミアのみならず、行政、産業界など多角的なアプローチによるイノベーション・マネジメントについて、受講者間の討論を積極的に採り入れながら、知識および実践的な方法論を身につける。</p>											
<b>〔到達目標〕</b>											
<p>国内外の科学技術・イノベーション施策およびそれらの立案プロセスを学ぶことによって、短期または中長期的に重要となる科学技術を洞察する能力を獲得するとともに、イノベーションへ発展させる実践的な方法論を身につける。また、受講生各自の専門分野を中心に展開されるイノベーションの在り方について具体的に検討し、国家レベルの施策としての体系化を目指す。</p>											
<b>〔授業計画と内容〕</b>											
<p>【第1～2回】 イノベーション総論：イノベーションが注目されるようになった歴史的背景から理解し、イノベーションの基本認識を理解する。</p> <p>【第3～5回】 科学技術とイノベーション：イノベーションの中でも、特に科学技術の発展により実現されるイノベーションについて、その特殊性について把握する。</p> <p>【第6～7回】 科学技術行政：これまでのキャッチアップ型の科学技術政策から、イノベーション創出に向けた科学技術政策への転換について体系的に把握する。</p> <p>【第8回】 諸外国のイノベーション政策：各国で展開されているイノベーション政策についてその特徴を把握し、日本のイノベーション政策の在り方を検討する。</p> <p>【第9～11回】 研究開発マネジメント：技術経営の観点から、企業など研究開発部門のマネジメントの在り方やその国際比較などを通して、実践的なイノベーション・マネジメント・システムを考察する。</p> <p>【第12～14回】 知的財産戦略、国際標準化戦略、イノベーション関連制度：研究開発と知的財産の在り方、グローバル市場獲得と国際標準化との関係、研究開発税制など、グローバルビジネス戦略に関する基本的な知識を学習する。</p> <p>【第15回】 学習到達度の確認</p>											
<b>〔履修要件〕</b>											
特になし											
<b>〔成績評価の方法・観点及び達成度〕</b>											
<b>〔評価方法〕</b>											
レポート試験の成績（1回、60％）、平常点（40％）により評価する。平常点評価には、出席状況、数回の小レポート評価を含む。なお、4回以上授業を欠席した場合は、単位を認めない。											
<b>〔教科書〕</b>											
必要に応じて担当教員が作成した資料を配布する。											

[参考書等]

[授業外学習（予習・復習）等]

必要な予習・復習については講義中に指示する。

[その他（オフィスアワー等）]

必要に応じて、外部講師による話題提供等を踏まえながら実施する。

連絡先： kuwajima.shuichiro.3c@kyoto-u.ac.jp